

「時光寺縁起」と「本尊縁起絵」

高砂市阿弥陀町の時光寺は、浄土宗西山禅林派の寺院です。江戸初期の成立とされる「播州遍照山時光寺縁起」（『播陽

万宝智恵袋』所収）によると、開創は多田満仲の子孫の源経家です。経家は、摂津国浄橋寺（西宮市）で西山派の開祖

証空しょうくうの弟子となり、時光房と名乗り、伊保崎の心光寺に入ります。

時光上人は、建長元年（一二四九）、海中から引き上げられた阿弥陀如来像を本尊として、曾根天神社の西に堂を建立しました。当時の様子を「縁起」は、「当国他国、近里遠村、道俗男女結縁けちえんせし者、盛んなる市のごとし」と記しています。その後、現在の地に「七間四面の御堂・食堂」などが

建立され、文永十年（一二七三）に移されたとされています。

ところで、この「縁起」は絵巻物の体裁をとっていたようですが、絵の内容については知られていません。しかし、現在時光寺には、江戸初期に制作された「本尊縁起絵」（写真）が所蔵されています。瀬戸内海の中から阿弥陀如来を引き上げる漁民の姿や新旧時光寺の伽藍など、「縁起」の主な内容が縦一四二センチ・横一三〇センチの画面二幅に、豊かな色彩で描かれています。ここには、瓦葺きの家並みが見立ち並び高砂浦の景観も描かれており、注目されます。

（高砂市史編さん専門委員

梶木 良夫）



▲ 『時光寺本尊縁起』に描かれた新旧時光寺の伽藍、下が曾根天神西側の旧伽藍

